

Working mother

ワーキングマザー



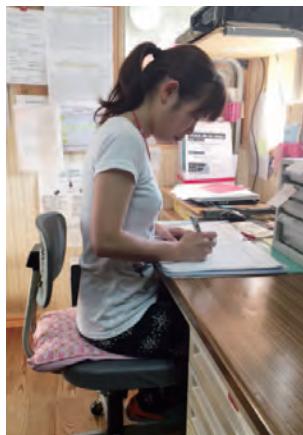
責任ある立場になつたからこそ、プライベートを大切にするようになった

藤川 由加子さん

- 家族構成／夫(調理師)、子ども1人、祖父母の5人家族
- 子どもの預け先／幼稚園
- 仕事／介護福祉士(施設長)
お年寄りの介護・事務経理、スタッフの管理業務など
(グループホームやわらぎ)
- 勤務時間／8:30～17:30 週5日
(日数) 夜勤 月5回
- 勤務歴／12年目

① タイムスケジュール

07:00	起床 お弁当作り・朝食・準備 おじいちゃんが娘を園に送りのため、バトンタッチ
08:00	出勤
12:00	昼食
17:30	退勤・買い物
18:00	帰宅
19:00	夕食
20:00	お風呂
21:00	寝かしつけ・就寝 (たっぷり寝ます!)



一お年寄りを大切にしたい、が私の根っこ

私は3世帯同居で育ちました。ひいおばあちゃんのお世話をする家族の姿を見たり、自分がお世話をする機会もあってか、「仕事として、お年寄りのお世話をしたい」という気持ちが自然とありました。そんな思いから、高校と専門学校では福祉を学び、初めての就職も介護福祉の会社でした。

しかし、その会社で上司の方針や考え方についていけず、2年で退職。福祉の仕事から離れ、いろいろなアルバイトもしてみましたが、やはり介護福祉の仕事は忘れられず、ご縁あって現在の会社に再就職したのが12年前です。

一子どもを持つ。役職につく。

3年前に娘を出産し、育児休業を1年取得。

復帰したての頃は、「仕事も子育ても頑張らなくちゃ」という気負いから、一緒に住む両親の存在がありながらも、自分に100%をのぞみ、いっぱいいっぱい。2年経った今ようやく、家のことで自分のことにも余裕が持てるようになりました。

実は、育休から復帰する直前に会社側から「施設長になりませんか」という打診がありました。ムリだと思いつつも、やってみることも考えました。しばらく悩み、夫とも相談したうえで、「十分にやれるかはわからないけれど」「2人目の子どもが欲しいと思っている」という自分の正直な想いや先の見通しを伝えた上で、施設長という役割を引き受けました。

一環境変化から見えたもの

両親が同居ということで、家事や育児の応援をもらえ恵まれた環境ですが、子育てについてはまずは夫婦で話し合い、その日の出来事などを話すようにしています。

施設長という責任ある仕事も増え、大変と言えば大変ですが、時間がないからこそ時間を逆算してうまく使うようになります。他の子育て中のスタッフに「はよお帰りよ」といつそう配慮できるようになりました。また、仕事が増えたことにより、自分や仕事を客観的に見れるようになり、他の人を巻き込んで仕事をする働き方になったと思います。施設長になる前よりも、家でイララしなくなりました(笑)

子育てをしながらの仕事は、とても大変ですが子どもがいてくれるからこそ頑張れます。失敗を恐れず、常に前進あるのみ。必ず結果はついてくる、と子どもにも伝えたいと思っています。

NPO法人ワークライフ・コラボの シゴト×ライフスタイル

★ここポイント★

ママが役職に就く、という雲の上の話に感じるかもしれません。人を管理するポジションにママが増えることは、子育てや労働時間に配慮できる人や会社が増えるということ。リーダーママが気負いなく働きやすい環境に、会社も人も社会も変わらないといけないですね。



今回の取材担当

堀田 真奈

★小5の長女、年長の長男の2児の母。忘れん坊のウッカリ母は、しっかり者長女にダメだしをくらう毎日です(苦笑)

イベント・各種情報アップしています!

【FB】▶ <http://www.facebook.com/worcolla>
【ツイッター】▶ @worcolla_hotta
【HP】▶ 「ワークライフ・コラボ」で検索